

研修会 評価

研修名	医療事故調査制度				
領域	医療安全研修	会場	看護研修センター	受講料	会 員：3,080 円 非会員：6,160 円
対象	学習段階レベル：レベルⅣ・Ⅴ 募集数(60人)応募数(23人)参加数(21人)会員数(21人)非会員数(0人)				
日時	令和 5年 12月 6日(水曜日) 10:00 ~ 16:00				
ねらい(目標)	1. 医療事故調査制度の現状と課題を理解する。 2. 制度推進に向けた自施設の課題を明確にできる。				
講師	鳥谷部真一				
内容・方法	講義：・医療事故調査制度の現状と課題 ・事例を通して初期対応から再発防止と対策 ・院内体制の構築 講義とGWを実施				
結果・評価 (受講者の意見感想含む)	アンケートを実施して評価する。(回収数 15/21人中、回収率 71%) 研修の理解度は「理解できた」「ほぼ理解できた」が 100%であった。研修の満足度は「満足できた」「ほぼ満足できた」が 100%、あまり満足できなかったが 0%であった。また、学習課題の達成度は「達成できた」「ほぼ達成できた」が 100%であった。達成できなかったが 0%であった。研修内容の意見として、資料があるとよかったが 2名。80%以上を達成基準と定めており、研修のねらいはほぼ達成できたと判断する。難しい内容をわかりやすく伝えてもらい、自施設での課題が明確になったなど、良い評価が得られた。				
企画の評価	アンケートにて評価する。ねらいとの整合性は 100%であった。医療事故調査制度の現状と課題としてこの企画は有効であったと判断する。				
課題	午前・午後、講義とGWで進められた。講義は現状を踏まえた分かりやすい講義であった。医療事故調査制度について解説を含めた講義であった。GWでは、事例をもとに、報告事例かどうかの判断や事例発生時の報告体制や報告内容、報告時の注意事項、事故調査委員会の構成や、調査方法、検討方法、報告書の作成についてなど、具体的な方法が理解できるプログラムになっていた。今回、職位が安全管理者より師長や副看護部長等看護管理者が多くを占め、医療安全管理業務に携わったばかりの参加者もいた。実際に事故調査について説明するロールプレイでは、制度の説明を家族に行うことは難しいが、研修前の不安は少し解消できたという意見もあった。看護管理者と安全管理者の役割には違いがあり具体的な行動にも、看護管理者では難しいこともあると思われた。看護師長であっても医療事故調査制度の理解が難しい場合もあるため、講師と相談し資料の準備をすると良いのではないかと考える。医療安全に関する施設間の貴重な情報交換の場となり、参加者から好評だった。				
担当者	医療・看護安全委員				